

千町田

創刊号

発行元:(農)のきの郷

発行責任者:山本 耕一

「のきの郷」法人設立

代表理事 仲井邦義



「(農)のきの郷」の設立は、県内2番目の大規模法人として各方面から期待されています。今、国は担い手の農地集積や、大区画による基盤整備の推進を政策課題として、農を強くする、土地を守る、地域を育むなどに取り組んでいます。それは、今日でさえ全国的に耕作放棄地の増加と、農業従事者の高齢化が進み、場所によっては過疎化の心配さえ起きているからです。そこで、担い手の農地

集積や、大区画による基盤整備の推進などを検討しています。幸い能義地区では、組合員のご理解、ご協力により圃場整備は最終工区のみとなり、平成26年にはほぼ終わろうとしています。また能義地区営農組合では、平成22年度より2ヶ年で機械施設の導入がなされ、まさに大区画と大型農業機械による省力化が図られ、このたびの法人設立時に機械設備などが引き継がれました。今後は、組合員の皆様のご意見を尊重し、集落の永续性、全員参加の経営を目指し努力致します。

支援いただいている方々から「設立して良かったと思われる法人になって欲しい」とのメッセージを大切に、「のきの郷」の発展に努力していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

新体制発足 各部長 抱負を語る

営農部長

小川 聡

(利弘支部)

営農部では将来



を見据えた営農事業を構築していきます。2年3作の六次産業化への取組みを視野に入れ検討を進めていきたいと思えます。平成25年度は以下のような作付で進めていきますのでご協力をお願いします。

- * 水 稲 .. 96 . 9 ha
- * 飼料米 .. 12 . 2 ha
- * 大豆 .. 11 . 3 ha
- * 麦 .. 5 . 7 ha
- * 菜種 .. 5 . 6 ha

機械施設部長

佐伯 正志

(飯生支部)

今年度は農事



組合法人として、「各種作業の安全管理を徹底する」、「各種作業機械の点検整備を徹底する」、「各種作業機械の操作を統一する(マニュアル化)」、「圃場にお

ける異物の除去を徹底する」、「技術力の向上と後継者育成を図る」の五本柱を中心に取組みたいと思っています。また、秋作業時には講習会の実施ならびに、野焼き、耕起を計画しておりますので、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

総務部長

山本 耕一

(赤崎支部)

能義地区営農



組合通常総会、そして法人設立総会の開催、設立登記など慌ただしく月日が経って行った。今年度は将来を見据え取り巻く農業情勢に耐え抜く農業経営基盤を構築したい。これまで取組んだ事業をさらに充実させると共に、これから先の展望も踏まえ、新規営農の取組、六次産業化と販売販路の開拓など、信頼され親しまれる「のきの郷」の組織作りと活動の展開をと思い描く。ご支援とご協力をお願いしたい。

種まき お疲れ様でした

4月7日から各支部にて順次種まきが行われました。合わせて7日間のべ252名の作業となり、総作業箱枚数は約1万2千箱となりました。

4月も天候不順だったため寒い日が作業日に当た



れた支部の方は大変でした。その後の育苗は各支部にて随時行われます。

能義幼稚園児 菜の花田圃でかくれんぼ

利弘農道入り口周りで、今年も菜の花が見事に咲きそろいました。4月18日に、能義幼稚園の園児皆



さんと先生方総勢20名が遊びに来てくれました。菜の花の中でかくれんぼしたり汽車ごっこしたりと楽しいひと時を過ごしました。来年もまた遊びに来てね。

能義小学校 田植体験

5月30日能義小学校の3年生と5年生が、田植への体験学習を行いました。寿会の皆さんよりご指導をいただき、慣れない田んぼに足をとりながら一苗大切に植えていきまし



た。秋の刈取りも体験しますので収穫が楽しみです。田植の後には田植機の説明を聞いて理解を深めました。

今後の作業計画

田植作業は例年と比較すると10日遅れの6月13日頃完了予定です。その後、裸麦・菜種・小麦を刈取り、大豆を播種します。畦畔等の草刈りは雑草の繁茂状況を見ながら実施します。各支部から出役要請を致しますので、ご協力をよろしく願います。なお、水管理は9名体制(各支部3名)で実施予定です。

お悔やみ申し上げます

構成員 田口 隆 殿

構成員 山本 徳子 殿

(赤崎支部)

ちよこし聞いて

この広報誌に安来二中校歌にも出てくる「千町田(ちまちだ)」という名前を付けました。広辞苑によると千町田は「千町もある田の意、広い田」となっています。この広い田がいつまでも残っていきますようにと願いをこめました。これからもよろしくお願いします。(き)